

地域金融が地域経済の成長に与える影響

一橋大学大学院生 山田佳美

一橋大学 小西大

本論文の目的は、地域金融の発展が地域経済の成長に与える影響を明らかにすることであった。日本は企業の9割を中小企業が占めており、日本経済の成長においても大きな影響力を有している。中小企業は全国に点在しており、地方地域では経済を支える柱である。その中小企業は、従来から大企業と比べると資金調達が困難である傾向がある。そのため、中小企業の円滑な資金調達は重要な課題であり、地方銀行や信用金庫のような地域金融機関がその役割を担うことが期待されている。一方で、地域金融機関の主要な顧客は各地域の中小企業や個人であり、そのために地域経済の盛衰は地域金融機関自身の死活問題であることから、地域経済の成長促進は地域金融機関にも重要な経営課題であると言える。

本論文の特徴は、信用金庫のデータを用いて、大都市圏を除く市町村ベースで分析を行ったことである。信用金庫は、地方銀行に次ぐ預金量および貸出量を有していると同時に、地方銀行以上に地域経済との関係を念頭に置く金融仲介機関であることが組織形態や店舗戦略から見るができる。さらに、信用金庫は市町村ベースで営業地域を約款で定める必要があり、営業地域となる市町村に密着した業務を行っている。そのため、地域金融の発展が地域経済に与える影響をより精緻に見ることが可能である。加えて、実証分析では信用金庫の健全性と効率性の観点、地域の競争可能性の観点からサブサンプルを抽出して分析を行っている。信用金庫の健全性や効率性、競争による地域経済への影響の違いを見ることで、信用金庫の経営が地域経済にもたらす影響を見ることにもつながると考える。

実証分析は、Rajan and Zingales(1998)に基づき行った。分析した結果、以下の二点が明らかになった。第一に、より金融が発展した地域では、外部資金依存度の高い産業がより成長することが示された。第二に、信用金庫の健全性が平均より高い、効率性が平均より高い地域では、金融の発展が外部資金依存度の高い産業の成長を促すことを確認した。第三に、①競争は激しくなく、②独占状態であれば十分に本業からの収益が確保できる地域では、金融の発展が外部資金依存度の高い産業の成長を促すことを確認した。頑健性のテストを行ったところ、実証分析の結果は頑健であった。

本論文の課題は以下のとおりである。第一に、近年のデータを用いた分析のみを行っていることである。今後、概して経済成長あるいは衰退している期間で同様の分析を行い、本論文で用いたサンプル期間との比較を試みたい。第二に、政府系金融機関の影響を考慮できていないことである。特に、中小零細企業を顧客とする日本政策金融公庫のような政府系金融機関は、地域経済に影響を与えうると考える。そのため、政府系金融機関の影響をコントロールすることも今後の課題である。